

## 25 災害時における歯科支援活動教育の効果

渡邊美幸, 本間和代

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 災害, 歯科衛生士, 歯科支援活動, 教育

### はじめに

新潟県では中越地震, 中越沖地震や新潟福島豪雨など度重なる災害に見舞われ, 在学生・卒業生等に多くの被災者を出した。その度に本学も歯科医療支援チームに加わり, 私たち歯科衛生士教員も被災地に入り活動してきた。それらの経験を経て, 災害時に即, 対応できる歯科衛生士の養成が必要であると考え, 平成20年より「歯科保健指導実習」の科目に「災害時における歯科支援活動」の教育を導入してきた。

そこで, 本教育の効果を検証し, その授業内容を充実させることを目的に, 学生にアンケートを実施し, その結果から今後の課題について検討した。

### 対象および方法

対象は, 災害時における歯科支援活動の講義を受講した, 平成28年度歯科衛生士学科3年生70名である。

方法は, 本講義の受講前と受講後にアンケートを行った。受講前アンケートの内容は, 大規模災害遭遇・避難経験の有無, 災害ボランティア参加の意志および実施したい活動などである。また, 受講後アンケートの内容は, 講義の有効性, 受講しての感想, 受講後の変化, 災害ボランティア参加の意志および実施したい活動, 歯科支援活動で実践できることである。

### 結果および考察

大規模災害遭遇・避難経験の有無は, 「あり」が24.3%, 「なし」が75.7%で, 中越地震や中越沖地震において, けがや家屋半壊の被害を受け, 避難生活を経験した者がいた。講義の有効性については, 有益であった者が98.6%, 少し有益であった者が1.4%であった。その理由として, 活動の実際を知り, 災

害時における歯科衛生士の役割や歯科支援活動の重要性を理解できたことを挙げている。また, 受講後の変化については, 災害ボランティア参加意志の向上が32名, 歯科衛生士の役割の理解が19名, 歯科支援活動に対する知識の向上が10名, 災害時における歯科の重要性の理解が7名と続いた。また, 災害ボランティア参加の意志は, 「参加したい」が最も多く, 受講前が80.0%, 受講後が92.8%であった(図1)。これは, 身近に災害体験をしたことにより, 被災者のために役立ちたいという学生の気持ちが伺える結果であり, 受講後, さらに向上したことは, 災害時の口腔管理の重要性を理解し, 自分も歯科衛生士として歯科支援活動に関わりたいという思いが強くなったためと思われる。歯科支援活動で実践できることは, 歯科口腔介護が62名と最も多く, 次いで歯科保健指導が57名で, 1年間にわたる臨地・臨床実習での体験が自信につながったものと思われる。

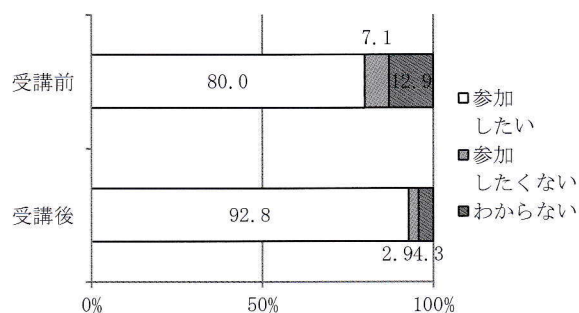


図1 受講前後における災害ボランティア参加の意志

### まとめ

授業内容の充実にあたり, 被災現場を想定した実習を取り入れるなどし, 災害時に即戦力となる歯科衛生士の養成に取り組んでいきたいと思う。今後も被災地での貴重な経験を教育の中に活かしていきたい。